

平成20年度 第2回外部評価報告書

鳥取県立鳥取工業高等学校
校長 井上 善弘

評 価 日		平成21年2月26日(木)				
委 員	氏 名	年齢	性別	資格・所属等		委員長
	井嶋 克夫					
	稲場 勇					
	西垣 幸一					
	岡山 毅 徳長 由美					
評 価 ・ 提 言					学校の所見・改善策等	
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ①全般について ○効果の検証と更なる改善への反映の観点からも、最終自己評価を次年度の重点目標設定や具体の改善方針に活かしてほしい。 ○全般的に「概ね達成」、「変化の兆し」に該当するB又はCの最終評価となっているが、アンケート結果から見ると生徒や保護者の認識と教職員の認識に乖離が見られる項目もある。その点に関して教職員の十分な分析や議論が必要である。 ○次年度の改善方針に関しては個々の教職員がそれぞれの立場で検討を重ねて練り上げたものであるはず。不退転の気持ちを持って全職員が共通認識の上に立った取り組みを強く要望する。 ○学校評価は評価結果に基づいて学校運営の改善を図り、教育水準を向上させるためのもの。そのためには、改善策実現のために学校組織全体として推進していくことが究めて重要である。 ○学校評価スケジュールに関して言えば、難しい点もあるだろうが、中間評価の基づいた改善策を実践し、それらの効果を検証すると期間が少ない感想を持った。 ○課題解決のためには具体的な改善策を講ずることが基本であるが、メニューが増えれば増える程エネルギーが分散してしまう。改善策を実行有らしめるためにも、出来るだけ絞ったものにして、教職員が集中的に取り組むべきではないか。 ②各評価項目について 「1. 主体的な学びの涵養」 ○学習習慣の定着化は昨年度の重点目標の一つであった。一定の改善は見られるが、自宅学習時間の実態から見ても急務の課題であることには変わりない。 授業を大事にして予習・復習をするからこそ、学んだものが定着する。そのことを徹底して指導すべき。 基礎基本があるからこそ応用する力に結びつく。企業では、技術革新は飛躍的に進歩しており、一定期間学んだ知識・技能では持ちこたえられない。学び続ける意欲の重要性が叫ばれる所以はそこにあると思っている。 また、知識・技術の習得も大事であるが、何のために学び、何を身に付けてなければならないかを、教師は生徒に明確に示してやる必要がある。 ○授業評価アンケートに関しては、生徒の負担等を勘案して悉皆にはしていないとのことであるが、毎年は難しいとしても何らかの工夫が必要ではないか。 個々の教師の授業が生徒達にどう評価されているかを的確に把握して初めてクラスや個々の生徒に応じた指導方法や授業改善が具体のものになると考える。 「2. 豊かな人間性の育成」 ○いじめの背景は様々だが、他人との距離がうまく取れないとか、自分と異質なものを容認できないといったことが要因となっているケースもある。 生徒達には一人ひとりの存在を大切にする日常的な態度の大					○ミッションをもとに学校経営・運営ビジョンに沿った形での評価項目を設定し、具体的目標、具体方針に関しては緊急性の高いものを厳選する。 ○生徒代表から要望や意見を聞くような機会を設けることも考えたい。 ○取り組みの手立てや達成基準となる指針を明確にすることで、教職員の目的意識を鮮明にするとともに学校組織の活性化に繋げたい。 ○学校評価の年間スケジュールに関しては、中間評価と最終評価の期間を確保するため、作業日程を延ばしたものがある。 ○どこに焦点を当てるかによって問題の所在も改善策も大きく異なる。解決手段を考える際に優先順位をつけて段階的に行なうように改めたい。 ○学びの基礎力の定着は自宅学習の習慣の定着に尽きる。学習することの意義や意味を問い続けるとともに、課題やノート点検等による個別指導や放課後補習等の充実を図りたい。 ○生徒達の学習意欲を喚起するためには、よい授業、質の高い授業をめざさなければならない。そのためにも教師の授業力に負うところが大きい。指導方法の改善を図るための公開授業の実施や教職員の職能研修(特に教科指導)派遣を促進したい。 ○授業アンケートに関しては、教員個々が必要に応じて実施しているものもあり、指導上の問題点の把握といった観点では、現行のやり方で目的を達成していると考えている。ただ、授業アンケートの実施方法に関しては指摘もあるので検討したい。 ○いじめに関しては、早期発見、早期対応が基本。QUアンケート、いじめアンケートの実施やサインを見逃さない注視、日常的な相談体制機能を充実す	

切さを説いてほしいし、生徒達の悩み等を積極的に受け止める、問題があれば一致協力した対応を望む。

- 豊かな人間性の育成に関しては、ボランティア体験とか読書は有効である。多様な価値観に気づいたり幅広の人間関係から学ぶものも多いはず。継続的な取組みを望むとともに多くの生徒が取り組むような働きかけをしてほしい。
- 価値観が多様化してどんな生き方でも許される世の中になっている。心を病んだり、ストレスをためる若者が多くなっている印象を持つ。

「3. キャリア教育の充実と進路保障」

- 定着指導、企業開拓の観点から進路担当職員のみならず、工業科の職員が企業訪問を実施したとのことであるが、大事なこと。生徒の企業選択のミスマッチを防ぐ、企業の実態や企業が求めている資質・能力を教職員が知ることは、キャリア教育の充実や進路保障に繋がる。
- キャリア教育の充実の一貫として、今年度新たに企業現場体験学習の期間延長、夏季休業中のインターンシップを実施されたとのこと。職業観や勤労観を育成する意味で究めて重要な取組み。ただ、受入れ企業にとっては相当の負担を強いられる。研修が効果あるしめるためにも、学校は生徒達にどういった背景がありどういった目的を持った企画であるのかをきちんと説明してほしいし、やる以上は個々の生徒が明確な目標を持って臨んでほしい。

「4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立」

- 国のプロジェクト事業で、ものづくり技術を高めるために教職員を対象とした企業での研修が機械科で実施されたようだが、実践的な技術・技能を学びなおすことは必要である。そのことは、生徒たちのものづくりに対するモチベーションを高めることに直結している。

2. 学校運営等への提言

- 社会、地域へのボランティア活動は、社会貢献の必要性や学びを生きたものにする意味でも重要な取り組みである。実体験から得た学びや気づきは意欲を喚起したり潜在的な力を引出す契機になる。その意味でも人間的な成長に繋がると考えている。今後も継続して取り組んでほしい。
テクノボランティアの受入れ希望者が少なくなったとのことであるが、独居老人等が頼みやすい雰囲気を作ってもらえれば、要望する方は増えてくるはず。
- 普通科志向が依然として高いと聞いているが、専門高校は進学・就職にも対応できる教育課程を準備していることや進学・就職の実績等ももっとアピールしてほしい。
また、中学校への出前授業や中学生を対象としたものづくり教室等の新たに取組みも実施されたとのこと。ものづくりに興味・関心を持つ子供達を育てることにもなり、専門高校の魅力発信にもなっている。今後も継続して取り組んでほしい。
- 今年度から耐震工事が入っているようであるが、安全管理には十分留意してほしい。また、教育活動に支障が出るのが予想されるが、授業内容の進捗調整や学校行事の設定時期の工夫等を行なうことで、最小限のものとなるよう努力してほしい。
- 保護者に関する学校教育全般に関するアンケート項目に関しては肯定的な見方が少ないものもあり、学校側としてこの結果を真摯に受け止める必要がある。ただ、これは近年の PTA 活動が活性化されていること、学校行事への参加数が増加していることからしても、無関心層が減って学校教育の実態がきちんと見えている保護者が多くなったことを示すもの。減少の評価ではなく的確な評価に近づいたと考えるべき。また、家庭での会話が aumentata 結果とも取れる。
- 表現力や豊かな感性を育み、広い教養を得るためにも読書は大切なもの。本の貸し出し冊数が減少していることが気になる。

る。併行して、学校生活に明確な目標を持たせ、人間関係や生活体験を豊かにする指導を根気強く継続していく。

- 人、社会、自然と関わる直接的な体験を通して、豊かな人間性や社会性、たくましい実践力を持つ生徒を育てることは、教育の使命。学校のみならず家庭・地域社会の教育力も借りながら進めていきたい。

- 企業訪問は進路担当者及び工業学科の主任によるものであったが、工業科、普通科問わず全職員が対応していきたい。

- 企業現場体験、鳥工版デュアルシステムといった形で実施するインターンシップに関する指導手引書等も作成した。事前・事後指導を徹底するとともに、企業関係者、保護者参加の反省会、発表会を開催することとしている。また、意識啓発の観点から下級生にも参加させる。

- 来年度は他科での職員対象の企業研修を実施することとしている。国の事業が終わる来年度までに、企業研修や熟練技能士招聘メニューで得たノウハウを手順書、指導書といった形で残していく。

- 小学生や中学生に工業高校を理解してもらうとともに魅力を再認識してもらうメニューを継続的に行なっていく。

- 耐震工事の関係で行事等に絡むものの日程については、今年度内に可能な限り支障が出ない形での調整を行う。

- 教育活動をする上で、保護者は最大の理解者であり協力者でもある。本校の教育活動については、総会、クラス別懇談会、科別懇談会以外にも学校通信等で情報提供したい。

- 人間誰しも、時間と空間に制限がある。それを補完する一つが読書だと思っているが、書物を読むことで自分が未体験のことについて学び、様々な人の考え方が吸収できる。そんな読書の魅力を訴え続けていきたい。